

# 「G8 グローバル・パートナーシップに関する東京セミナー」 エグゼクティブ・サマリー

## 1. 目的

本セミナーは、「大量破壊兵器及び物質の拡散に対する G8 グローバル・パートナーシップ」を推進するために、各国の専門家や政策当局者を招き、各国の知見や経験を共有し、また問題点について共に議論することで対露非核化協力を促進すること、ならびに更なる大量破壊兵器の削減に向けた国際協力の役割と見通しについて踏み込んだ議論を行うことを目的として開催された。とりわけ、退役原子力潜水艦の解体や余剰プルトニウム処分などのプロジェクトの実施や、G 8 グローバル・パートナーシップの戦略的、あるいは組織的な問題に関し、最新の情報を交換・共有することによって、同パートナーシップを強化し、そのプロセスをより効率的かつ効果的なものとし、プロジェクトの実施を促進することを目指した。また、日本国民に問題の現状及び今後の課題等を理解してもらう機会を提供し、グローバル・パートナーシップへの理解と支援を促進する目的で開催された。

## 2. 背景

G8 グローバル・パートナーシップは、2002年カナダのカナナスキスで開催された G8 サミットで発足した。これは、まずロシアを対象に大量破壊兵器、すなわち核、化学、生物の各兵器、及びその関連物資等の拡散防止を主な目的として、不拡散、軍縮、テロ対策及び環境を含む原子力安全という分野に関連するプロジェクトを G 8 諸国が協調して資金を拠出し、協力して実施する枠組みであるとともに、右分野全体を包括し、資金調達の規模を示し、事業を実施する際のルールとメカニズムを明らかにして、G 8 全体としての取り組みを構築しようとするものである。

カナナスキス・サミットで発足した同パートナーシップはその後非 G8 諸国もメンバーに加えてその枠組みを拡大してきており、2003年のエビアン・サミットでは、フォローアップのための行動計画が採択された。

### 3. セミナーの概要

本セミナーは、平成17年6月7日、東京赤坂プリンスホテルにて、日露非核化協力委員会と米国戦略国際問題研究所（Center for Strategic and International Studies：CSIS）の共催、外務省及び米国非政府組織NTI（核の脅威削減イニシアティブ）の後援、（財）日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センターの協力により開催された。

本セミナーには、日本、ロシアの他、G8各国、非G8諸国でグローバル・パートナーシップに参加する関係国（ノルウェー、豪州、韓国）の政府関係者に加え、非政府組織（NGO）、研究機関などから約70名が参加し、我が国の民間企業、研究者、プレスなどから約50名がオブザーバーとして参加した。

本セミナーでは、冒頭に河井外務大臣政務官が開会挨拶を行い、サム・ナン元上院議員（ナン・ルーガー法の提唱者であり、NTIの共同議長を務める）が基調講演を行った。その後、日露両国を代表して、野村駐露大使およびアンチーポフ連邦原子力局副長官から、日本及びロシアそれぞれにおける現状の説明があった。その後パネルディスカッションを通じ、原子力潜水艦解体事業、余剰プルトニウム処分事業、グローバル・パートナーシップのあり方などについて参加者の間で多面的に率直な意見交換がなされ、プロジェクトの進捗状況、あるいは進捗を妨げる問題点などに関する情報を共有することができ、同パートナーシップの重要性が再確認された。また本セミナーは、これらの問題の現状、見通しや日本の取り組みについて、諸外国からの参加者や一般のオブザーバーに説明し理解を得る良い機会となった。

### 4. 主要論点

#### 1) グローバル・パートナーシップの意義

- ・ 9.11の米国同時多発テロ以降、テロリストが大量破壊兵器を入手することの脅威に対する認識がより一層高まった。大量破壊兵器によるテロの防止は、国際社会共通の利害であり、各国は共通の責任を負う。グローバル・パートナーシップは、大量破壊兵器の拡散やテロの脅威を協力して防ぐための有効な枠組みである。
- ・ 現在グローバル・パートナーシップの枠組みで取り組んでいる優先分野は、核物質の防護・処分、原子力潜水艦の解体、化学兵器の解体・処分、兵器開発に従事していた科学者や技術者の再雇用である。
- ・ 2002年のカナダスキス・サミットにおいてG8諸国は200億ドルの拠出を10年間で

- 行うことを約束し、大量破壊兵器および物質・技術の拡散に対抗することとした。
- 日本をはじめ、ロシアの近隣諸国は、適切な処置がなされないまま放置されている原子力潜水艦や核物質、化学兵器関連の物質が、テロという安全保障上の脅威というだけではなく、環境面においても大きな懸念の要因であり、こうした物質の適切な処置は、単にロシアに対する支援ということだけではなく、自国の利益にも重大な利害を持っている。
  - このような問題の重大性に鑑み、グローバル・パートナーシップの参加国は、当初の8カ国から現在では22カ国にまで拡大している。
  - しかし、その重要性にもかかわらず資金調達のコミットメントは満たされておらず、200億ドルの目標のうち、実際に各国がコミットした拠出額170億ドルにとどまる。(ロシアの拠出分を含めると190億ドル。)
  - また、行政手続、免税、免責等の問題が指摘され、その他の要因も含め、プロジェクトの進捗の遅れが懸念されている。
  - そのため、今後、事業実施の促進のためのさらなる国際協調と理解がドナー側、受益国、双方に求められている。

## 2) 原潜解体支援事業

- 現在195隻の原子力潜水艦が退役し、そのうち110隻程度が解体されている。
- 原潜解体事業に参画する各国の動機は、テロリストによる核関連物資入手の防止という安全保障上の理由だけでなく、近海の環境汚染の防止も大きな理由として挙げられる。
- 使用済み核燃料の貯蔵・処分能力(含輸送能力)が不十分なために核拡散の懸念、環境上の懸念が生じる可能性がある。また、使用済み燃料の処分能力が十分になれば原潜解体事業全体の進捗が滞ることになる。
- また、使用済み燃料や廃棄物の安全管理が重要であるとの指摘がなされた。
- ロシアの北西部に比べると極東における原潜解体事業の進捗は遅れている。ただしこれは相対的なものであり、両地域において事業の進捗の遅れが見られる。
- 原潜解体に関わる国の多くは、程度の差こそあれ、事業の遅れはロシアにおける省庁間の調整不足、免税や民事上の免責などの問題に起因しているとの認識を示した。それに対しロシア側からはドナー国内のプロセスの遅延もその要因であるとの指摘

がなされた。しかし、このような課題は協調して解決を急ぐべきであり、そのためにはドナー国とロシアの実務レベルでよい関係を築くことが必要であるとの見解で一致した。

- 極東ロシアにおいて新たにオーストラリアがグローバル・パートナーシップのメンバーとして原潜解体に資金を拠出した。また韓国もその用意があると表明している。この新たな動きを歓迎する。
- 北西ロシアでは戦略マスタープランを協調して策定し、それに従って事業を進めようとしており、このような計画を極東でも策定したらどうか、との提案があった。
- ロシア側から情報提供を受けることで、適切な事業計画の策定を可能にすると共に、拠出された資金が効率的かつ有効に利用されていることを納税者や関係者に報告することが重要であり、いくつかの国では年次報告書を作成している。

### 3) 余剰プルトニウム処分

- 2000年の米露協定で双方が34トンのプルトニウムを同時並行的に処分することを取り決めた。
- プルトニウムの処分は、核軍縮の不可逆性を担保すること、テロリストの手に核物質が渡るのを阻止する核テロ対策、不拡散という点から重要な課題である。
- ロシアの支援のために多国間の枠組みを構築すべくG8諸国等が協議中であるが、免責問題等の懸案が残っており、合意は成立していない。現在、免責問題については、その進展を図るべく、米露間で集中的に協議中である。その他の問題についても国際社会にとって有意義なこのプロジェクトを成功させるべく関係者が努力しているところである。
- 現在処分方法などについても検討が進められている。MOX燃料の製造方式としては、仏の技術を用いるペレット方式とロシア自前の技術を用いるバイパック方式の双方を採用することが計画されている。日本はバイパック方式で製造したMOX燃料を高速増殖炉で処分するためのライセンス取得のための試験照射等についてロシアに協力している。

### 4) グローバル・パートナーシップの今後

- グローバル・パートナーシップは、「対ロシア支援」から、ロシアの責任と分担を明

確にしつつ、国際社会共通の課題である大量破壊兵器の拡散防止に取り組むための、真のパートナーシップとなるべきである。

- ・ 現在取り組んでいる分野以外にも取り組みの必要な分野があり、拠出を約束した200億ドルでは不十分である。今後各国の拠出額の増額が望ましい。
- ・ グローバル・パートナーシップが真にグローバルであるために、ドナー国の拡大、受益国の多角化も必要である。ドナー国に関しては、現在グローバル・パートナーシップのメンバーは22カ国にまで拡大している。また、受益国もロシアに加え、ウクライナが参加している。またリビア、イラク、アルバニアでも米国による脅威削減の活動が実施されており、将来こうした脅威削減の枠組みが他国に適用される可能性もある。
- ・ グローバル・パートナーシップ内での議論や調整は、急な優先順位の変更に対処するためや、効率的な支援の実施のために重要な要素である。
- ・ G8諸国、非G8諸国に関わらずメンバー同士での情報の共有を進め、また国際的な調整をおこなって協力の重複を避け、効率的なプロジェクトの実施とコストの削減を実現すべきである。
- ・ 現在事業が進められている4つの優先分野以外にも生物兵器など、今後取り組みが必要となる分野もまだ残されている。
- ・ グローバル・パートナーシップの持続可能性を維持するためには、納税者や利害関係者（国会や政府各部署）に対し、同パートナーシップが国際安全保障ならびに自国の利害（環境問題など）にとって重要であることを理解させる必要がある。

<参考> 外務省ホームページ「G8グローバル・パートナーシップに関する東京セミナー」の開催（概要と評価） [http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/kyuso/g8\\_0506gh.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/kyuso/g8_0506gh.html)

●セミナー議題（当日配布版：英語）

**AGENDA**

**Tokyo Seminar on G8 Global Partnership  
- Making the World More Secure-**

- Co-hosted by: The Japan-Russia Committee to Assist the Destruction of Nuclear Weapons Reduced in the Russian Federation and,  
The Center for Strategic and International Studies (CSIS), USA
- Supported by: The Ministry of Foreign Affairs of Japan and,  
The Nuclear Threat Initiative (NTI)
- Cooperated by: The Center for the Promotion of Disarmament and Non-Proliferation, Japan Institute of International Affairs (JIJA)

(This Seminar is held as a part of *CSIS/NTI Strengthening the Global Partnership Project.*)

June 7, 2005  
Akasaka Prince Hotel, Tokyo

- 0930 **Opening Remarks**  
—Mr. Katsuyuki Kawai  
Parliamentary Secretary for Foreign Affairs, Japan
- 0940 **Keynote Speech**  
—Senator Sam Nunn  
Former U.S. Senator,  
co-Chairman and CEO of the Nuclear Threat Initiative,  
Chairman of Board of Trustees of CSIS
- 1010 **Introductory Remarks**  
—Ambassador Issei Nomura  
Japanese Representative of the Governing Council of the Japan-Russian Committee to Assist the Destruction of Nuclear Weapons Reduced in the Russian Federation,  
Ambassador of Japan to the Russian Federation  
“Japan’s cooperation to Russia in the field of dismantlement of decommissioned nuclear submarines and other related projects”

1025 **Introductory Remarks**

—Mr. Sergey Antipov

Russian Representative of the Governing Council of the Japan-Russian Committee to Assist the Destruction of Nuclear Weapons Reduced in the Russian Federation,

Deputy Director, Federal Atomic Energy Agency, the Russian Federation

“Present condition, problems and perspectives of the international cooperation in the field of dismantlement of decommissioned nuclear submarines at the Russian Far East”

1040 Coffee break1100 **Panel Discussion**

**“Reviewing Global Partnership: Its Achievements for International Security and Cooperation”**

— Coordinator

• Mr. Robert Einhorn

Senior Adviser of the CSIS International Security Program

— Panelists

• Mr. Takeshi Nakane

Deputy Director-General, Disarmament, Non-proliferation and Science Department, Ministry of Foreign Affairs, Japan

• Mr. Sergey Antipov

Russian Representative of the Governing Council,  
Deputy Director of the Federal Atomic Energy Agency, the Russian Federation

• Dr. Alexander Pikaev

Director, Institute of World Economy and International Relations

• Mr. Fumihiko Yoshida

Editorial Writer, Asahi Shimbun

• Mr. Nils Bøhmer

Russian Program Director, the Bellona Foundation

1230 Lunch Break (at the Hotel)

\* Lunch will be served at a banquet hall in the Hotel

\* During the lunch, Mr. Hosei Norota, member of the House of Representatives and Chairman of the Group of Japanese Diet Members to promote Japan-Russia denuclearization cooperation, may deliver a short speech.

## 1400 Cooperation to Russia by Various Countries and Organizations

### Theme A: Cooperation for Dismantling Decommissioned Nuclear Submarines

- **Canada**
  - Mr. Stéphane Jobin  
Political Counselor, Embassy of Canada in Tokyo  
“Global Partnership Program (GPP) - Submarine Dismantlement Program”
- **Germany**
  - Mr. Holger Schmidt  
Project Leader, Projektleitung Atom-U-Boot-Entsorgung,  
Energiewerke Nord GmbH  
“German support for the dismantlement of nuclear submarines in Russia”
- **Norway**
  - Mr. Robert Kvile  
Deputy Director General, Ministry of Foreign Affairs  
“Concern for safety and environment aspects of dismantlement of decommissioned nuclear submarines”
- **the UK**
  - Dr. Alan Heyes  
Deputy Director, International Nuclear Policy & Programmes, Department of Trade and Industry  
“Dismantlement of decommissioned nuclear submarines from the viewpoint of non-proliferation”
- **the US**
  - “Dismantlement of decommissioned nuclear submarines in Kamchatka”
- **Arctic Military Environment Cooperation (AMEC)**
  - Mr. Dieter Rudolph  
US AMEC Program Director and Steering Group Co-Chair  
“AMEC’s viewpoint on decommissioned nuclear submarine dismantlement projects in the Russian Far East”
- **Russian Academy of Science**
  - Acad. Ashot Sarkisov  
Academician, Advisor of Director of IBRAE  
“Environmental safety and monitoring measures in the dangerous radioactive facilities in the Far East, as well as possible responses to the accidents which may happen in the facilities”
  - Prof. Leonid Bolshov  
Director of IBRAE  
“Safety issues regarding the cessation and dismantlement of facilities in

the Russian Far East which are used for the Russian nuclear fleet.”

\* Questions and answers will follow for 20 minutes.

1535 **Theme B : Disposal of Surplus Plutonium**

• **the US**

- Dr. Michael Guhin  
Ambassador,  
U.S. Fissile Material Negotiator,  
U.S. Department of State

• **Japan**

- Mr. Yasuyoshi Komizo  
Director of International Nuclear Energy Cooperation Division,  
Ministry of Foreign Affairs

\* Questions and answers will follow for 10 minutes.

1605 Coffee break

1620 **Challenge and Future of G8 Global Partnership (G8GP)**

**Theme C : Challenge and Future of G8GP**

— Coordinator

• Mr. Takeshi Nakane  
Deputy Director-General, Disarmament, Non-proliferation and Science  
Department, Ministry of Foreign Affairs, Japan

— Panelists

- Mr. Viktor Akhunov  
Head of Department, Federal Atomic Energy Agency, the Russian Federa-  
tion
- Mr. Robert Einhorn  
Senior Adviser of the CSIS International Security Program
- Mr. Tom Conner  
Counselor, Australian Embassy in Tokyo
- Mr. Jong Kwon Youn  
Deputy Director, Disarmament and Non-Proliferation Division,  
Ministry of Foreign Affairs and Trade, Republic of Korea
- Dr. Alan Heyes  
Deputy Director, International Nuclear Policy & Programmes,  
Department of Trade and Industry, the UK

\* Questions and answers will follow for 20 minutes

1740 **Summary**

1755 **Closing**

1810 Reception (at the Hotel)

\* Reception hosted by the Japan-Russia Committee to Assist the Destruction of Nuclear Weapons Reduced in the Russian Federation will take place at a banquet hall in the Hotel.

*MC: Mr. Ichiro Ogasawara, Director of Arms Control and Disarmament Division, Ministry of Foreign Affairs, Japan*